アクリナトリン水和剤 アーデント水和剤	取扱メーカー: 日農, バイエル 原体メーカー: FMC
成分: アクリナトリン〔ピレスロイド系〕3.0%	性状:類白色水和性粉末45 µm 以下 毒性:普通物 消防法:——

- ●幅広い殺虫スペクトラムを有し、果樹、野菜、茶などのチョウ目、カメムシ目の他、アザミウマ類、ハダニ類など主要害虫に高い活性を示す。
- ●接触作用により速効的に強い殺虫力を示す。 (ノックダウン効果)
- ●光などに安定で優れた残効性を示す。
- ●特異な忌避作用(摂食阻害,産卵抑制など)を 有する。
- ●ミカンキイロアザミウマにも有効な合成ピレス ロイド系薬剤である。
- ●温度の高低に関係なく安定した効果を示す。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一 覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- ●害虫の発生初期を中心に、作用性の異なる他剤 との体系防除が望ましい。
- ●ハダニ類に対しては連用をさけ、作用性の異なる薬剤との輪番で使用し、年間の使用回数もできるだけ少なくする。

【薬効・薬害等の注意】 …………

- ●マンゴーに使用する場合, 着色期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意する。
- ●共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項 を参照。

【安全対策上の注意】 …………

- ●共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を 参照。
- ●ミツバチに対して影響があるので散布直後から 2日後まではミツバチを移動させるか、巣門を閉 じる。
- ●眼に対して刺激性がある。
- ●皮膚に対して刺激性がある。
- ●摘果等の作業の際は農薬用マスク,手袋,長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
- ●のど、鼻、皮膚を刺激する場合やカユミを生じる場合があるので注意する。
- ●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。







作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	アクリナトリンを含む 農薬の総使用回数
りんご	シンクイムシ類 キンモンホソガ アブラムシ類 ハダニ類			前日まで			
なし	シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類						
かき	カメムシ類 アザミウマ類 ハダニ類 カキノヘタムシガ	1000倍	200~ 700ℓ	7日前まで		散布	3回以内
5	モモハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類 カメムシ類 アザミウマ類 ドウガネブイブイ			並口まる	3回以内		
ネクタリン小粒核果類	モモハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類 カメムシ類 アザミウマ類			前日まで			
	アザミウマ類 ハダニ類 フタテンヒメヨコバイ			7日前まで	4回以内		4回以内
いちじく	ハダニ類 アブラムシ類 ショウジョウバエ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ アザミウマ類			前日まで 3日前まで	2回以内		2回以内
				3日削まで			
す い か	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	7/5(1)4学			5回以内		5回以内
いちご	アブラムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ		150∼				
きゅうり	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ	1000倍	300 ℓ	前日まで	4回以内		4回以内
なす	アブラムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ ハスモンヨトウ						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	アクリナトリンを含む 農薬の総使用回数
トマト	オオタバコガ	-			3回以内		3回以内
ミニトマト ピーマン とうがらし類	ミカンキイロアザミウマ アブラムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ		150∼ 300ℓ	前日まで	2回以内		2回以内
アスパラガス	オオタバコガ アブラムシ類 カメムシ類		150∼ 500ℓ			散布	
食用ぎく	アブラムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ ハスモンヨトウ ヨトウムシ		150 ∼ 300 ℓ	発生初期 但し, 収穫14日 前まで	1回		1回
しそ科葉菜類	ハダニ類		100∼	3日前まで	2回以内		2回以内
パセリ	ネギアザミウマ		300 ℓ	7日前まで			
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ カンザワハダニ ヨモギエダシャク		200 ∼ 400 ℓ	摘採14日 前まで	3回以内		3回以内
きく	アブラムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ		150∼ 300ℓ	発生初期	5回以内		5回以内